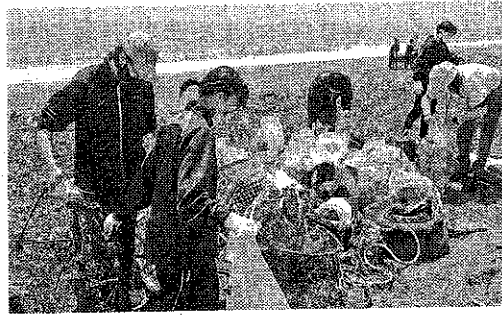


漂着ごみ調査し 環境問題に理解

白糠高生が探究学習

【白糠】白糠高校（田村信明校長）の1年生22人が総合的な探究の時間（白糠学Ⅰ）の一環で、和天別川河口付近に漂着したごみを拾って調査した。海洋ごみなどの環境問題について理解を深めることが目的で、昨年に続き2回目。

6月22日に実施。1時間ほどかけて海岸を歩き、ごみを拾い集めた。ペットボトルや空き缶のほか、破れた漁網やカニ籠の残骸、家



電製品、ロシアや中国など海外から流れ着いたとみられるごみもあり、総重量は約270kgとなった。

分別の結果、約60%がプラスチックごみ、約20%が

拾い集めた海洋ごみをまとめる生徒（白糠町役場提供）

金属類と判明した。坂野美さんは「思っていたよりとても大きなごみが多く、拾うのも大変だった。日常生活からごみを減らし、環境に負担がかからないようにしたい」と話していた。

（水谷友路）